

巖流島(松口月城)

巖流 島辺 殺気 横とう

両雄 死を 決して 輪贏を 争う

武蔵の 刀 鬼神 避け

小次郎の 劍 海若 驚く

虎 吼ゆるが 如く 龍 怒るに 似たり

達人の 技 余精 有り

電光 石火 見て 見えず

只 聞く 凄壯 裂帛の 声

血戦 数合 勝敗 決す

二天流の 名 古今に 鳴る

巖流島辺殺気横 両雄決死争輪贏

武蔵之刀鬼神避 小次郎劍海若驚

虎如吼兮竜似怒 達人之技有余精

電光石火見不見 只聞凄壯裂帛聲

血戦数合勝敗決 二天流名古今鳴

解説 武蔵と小次郎の巖流島の決闘を述べた詩。

語釈 ※巖流島||山口県下関市にある関門海峡に浮かぶ島。正式な島の名前は船島である。※両雄||武蔵と小次郎。※輪贏||かちまけ。※鬼神||凶暴な荒ぶる神に対する呼称。

※海若||海の神。海神。※電光石火||動作やふるまいがきわめてすばやいこと。

※凄壯||非常にいたましいさま。※裂帛||気合いの声。

通釈 巖流島の辺りは殺気が漂っている。武蔵と小次郎は死を賭して勝敗を争った。武蔵の刀は鬼神を避け、小次郎の劍は海の神が驚くほど鋭い。まるで虎が天に向かつて吠えるかの如く、龍が地上より這い出で怒るに似ている。両、達人の技は余裕が有り、劍の太刀さばきは電光石火の如く早い。両者の発する声は鋭かったが、勝敗は決し武蔵の勝利となった。この両者の決闘は今日に至るまで、語られる事であろう。